

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
	心理学概論 (General Psychology)						教職科目	オンライン (同時双方向型)						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
教員免許状 取得科目 (公民)	2	1	経済学部	前期	金1	日本語		単独						
担当 教員	氏名 田原 直美 (非常勤講師) E-mail naomi@seinan-gu.ac.jp 内線													
授業 の概 要	本講義は、心理学の初学者を対象に、様々な分野からなる心理学について概説しながら、人間とは何かについて理解を深めることを目的としている。授業では、第1に心理学における心の捉え方、第2に感じる、覚えること、学ぶことなど「心のしくみ」、第3に発達やメンタルヘルス、対人過程とどのように結びついているのかについて具体的にイメージできることを目指す。授業は、基本的には講義形式であるが、簡単な実験を行ったり、動画視聴、簡単なディスカッションなどを行う場合もある。													
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	
目標1	心理学における心の捉え方、脳と心、心の進化について、基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる						○							
目標2	知覚、記憶、学習分野における心理学の基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる						○							
目標3	発達、社会、臨床分野における心理学の基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる						○							
目標4	心理学的知識を日常経験と結びつけ、無意識に行うことがどんな心の仕組みであるかを心理学的に説明することができる											○		
目標5	心理学的な知識を日々の日常経験と結び付け、身の回りの出来事や社会事象について心理学的に捉え、説明することができる											○		
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							8					2		
授業の内容														
1	イントロダクション 心理学とは何か													
2	心理学が研究する心													
3	感覚と知覚													
4	記憶													
5	学習と言語													
6	脳と心													
7	前半のまとめ、小テスト1													
8	心の進化													
9	心の発達													
10	ライフサイクル													
11	動機づけと情動													
12	ストレスとメンタルヘルス、心理病理													
13	社会の中の人													
14	心と社会													
15	後半のまとめ、小テスト2													
授業 時間外 学修の 内容 と 想定 時間	A:知識の定着・確認	○	毎授業の終了後にリアクションペーパーを提出し、次回の最初にフィードバックを行う。授業の復習と知識の定着を図るとともに、授業で学んだことが日常生活で経験する人の行動や社会の事象とどのように結びついているか理解を目指す。					自己 学習	自習を促進するため、講義資料等はMoodleに公開する。					
	B:意見の表現・交換													
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
準備学修	Moodleに公開している資料を入手し、初回に提示する予定表に沿って各回の該当するテキストの箇所を読み、予習する(18h)。													
事後学修	テキストと資料を用いて講義の復習を行い(20h)、講義において紹介した心理的知識を実際の生活場面で捉える(14h)。													
想定時間合計	52													
教科書	長谷川 寿一・東條正城・大島 尚(著)『はじめて出会う心理学 第3版』(有斐閣アルマ、2020年)													
参考書	講義中に紹介する													
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10		
	リアクションペーパー	40%				○	○							
	授業中に実施する小テスト	60%	○	○	○									
注意事項														
備考	この科目は教職単位であり、卒業単位には含まれません。オンラインのリアルタイム授業で行います。													
リンク														
	URL													

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
	教育原理 (educational principles)					教職科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態				
必修	2	1	経済学部	後期	水1	日本語		単独				
担当教員	氏名 吉野 敦 E-mail ayoshino@oita-u.ac.jp 内線 7539											
授業の概要	この授業では、教育哲学・思想史や教育史の分野で蓄積されてきた知見を学ぶ。そのことを通じて、「教育」や「学校」といった、普段は「自明なもの」として受けとられることの多い教育的事象の「本質」や「原理」について、みずから批判的に考える力を獲得することを旨とする。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	教育に関わる基礎的概念について、教育思想史および教育史の知見を援用しながら説明できる					○	○					
目標2	日本および世界の教育の歴史について説明できる					○	○					
目標3	現代社会に固有の教育課題について、教育学的知見をふまみずからの見解を述べるができる							○	○			
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)						4	1	2	1			
授業の内容												
1	「教育」とは何か											
2	「教育学」とはどんな学問か											
3	「学校」とはどのような場所か											
4	「教えるー学ぶ」という営みのとらえ方											
5	「子ども」とはいかなる存在か											
6	「近代教育」をめぐる思想史①:「大教育思想家」たちの思考をたどる											
7	「近代教育」をめぐる思想史②:啓蒙思想											
8	「近代教育」をめぐる思想史③:公教育の理念											
9	「近代教育」をめぐる思想史④:教育可能性とメリトクラシー											
10	「近代教育」をめぐる思想史⑤:「発達」とは何か											
11	教育とポストモダン①:近代教育批判											
12	現代の教育課題①:比較教育の視点から学校を考える											
13	現代の教育課題②:主権者教育・シティズンシップ教育											
14	現代の教育課題③:デジタル技術と教育											
15	講義のまとめと振り返り											
授業内容 の 到達 目標	A:知識の定着・確認	○	レポート作成、グループでの討議、授業の振り返りコメント作成					必要に応じてMoodleを活用する。				
	B:意見の表現・交換	○										
	C:応用志向	○										
	D:知識の活用・創造	○										
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	配布資料の予習(10h)										
	事後学修	配布資料および授業ノートの復習(10h)、レポート作成(25h)										
	想定時間合計	45										
教科書	特に指定しない。適宜、資料や参考文献を指示・配布する											
参考書	文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』(必要に応じて、文科省HPから閲覧する)											
成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	レポート	80%	○	○								
	授業後のコメントシート	15%	○	○	○							
	授業への参加態度	5%	○	○	○							
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
	教育課程論 (curriculum theory)						教職科目	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	1	2	経済学部・理工学部	後期	金1	日本語		単独						
担当教員	氏名 前田菜摘 E-mail n-maeda@oita-u.ac.jp 内線 6148													
授業の概要	この授業では、教育課程の役割・機能・編成の原理、ならびに今日に至るまでの学習指導要領の変遷について学ぶとともに、各学校が実態に合わせてカリキュラム・マネジメントを行っていくことの意義を理解することを目的とする。なお、講義では、パワーポイントによる解説のほか、グループでの資料の読み取りや調べ学習、単元指導計画の検討といった活動を行う。													
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	
目標1	教育課程に関する基本的な用語や概念、我が国における学習指導要領の性格ならびに位置づけについて説明できる。						○							
目標2	学習指導要領改訂の歴史の変遷とその社会的背景を学び、教育課程が社会に果たす役割を説明できる。						○							
目標3	学校の実態に応じて教育課程全体をマネジメントをしていくことの重要性について説明できる。						○							
目標4	現行学習指導要領の考え方にもとづき、教科横断的・長期的な視点から指導計画を計画したり検討したりできる。						○							
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)							10							
授業の内容														
1	教育課程とは？(オリエンテーション)／ワーク「理想の学校をつくってみよう」													
2	教育課程とカリキュラム／映像資料「サドベリーバレースクール」													
3	教育課程編成の原理：経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラム／ワーク「身近な隠れたカリキュラム」													
4	学習指導要領の変遷とその背景／ワーク「現在に至るまでの学習指導要領の変遷を調べよう」													
5	現行学習指導要領の特色／ワーク「現行学習指導要領のキーワードを調べよう」													
6	学力とは何か、OECDの能力構想／ワーク「学力ってなんだろう」													
7	教科書、副教材と著作権／ワーク「教科書を見比べてみよう」													
8	カリキュラム・マネジメント(開発・実施・評価)の方法／ワーク「単元指導計画を検討しよう」													
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
授業の到達目標	A:知識の定着・確認	○	小テスト、話し合い、単元指導計画の作成					手段・方法	アイスクレイク、動画資料、LMS (Moodle) やGoogleワークスペースの活用					
	B:意見の表現・交換	○												
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	・前時に行なった内容について復習しておく。(4h)												
	事後学修	・8回講義までに単元指導計画案を作成する。(15h) ・Moodleから教育課程や学習指導要領に関する小テストや課題に回答する。(4h)												
	想定時間合計	23												
教科書	教科書は指定しない。適宜資料を配付する。													
参考書	文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』ISBN:978-4-8278-1580-1 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編』ISBN:978-4-491-03639-7													
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	受講態度・毎回のふりかえり	40%	○	○	○									
	小テストの得点	20%	○	○	○									
	単元指導計画の提出とその検討	10%				○								
	期末レポート	30%				○								
注意事項	特になし													
備考	特になし													
リンク	URL													

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
	総合的な学習の時間の理論と方法 (Theory and methods of integrated learning)					教職科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態				
必修	1	2	経済学部、理工学部	前期	月3	日本語		単独				
担当教員	氏名 牧野 治敏 E-mail hmakino@oita-u.ac.jp 内線 7644											
授業の概要	中学校の「総合的な学習の時間」高等学校の「総合的な探求の時間」について、学習指導要領と学習指導要領解説編をもとに、総合的な学習(探求)の時間が設置された経緯、目的を解説するとともに、年間指導計画に基づいた各学校の実践事例をカリキュラム・マネジメントをふまえながら講義する。 講義による理解をもとに、自ら指導することを想定した単元計画と授業案を個人やグループで設計する。また、他者の制作物をピアレビューし建設的修正意見により完成度を高める。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7
目標1	総合的な学習の時間が設置された意義を、中学校・高等学校で育成すべき資質能力の観点から説明できる。					○						
目標2	地域の事象を教材として、教科横断的な観点をもちながら、深い理解をえられる単元計画と授業を設計できる。						○			○		
目標3	教育改善には終わりが無いことを意識し、情報収集や技能開発への自覚を持つ。								○		○	
目標4	4 多様な授業案への包括的なプランを提案できる。							○				
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
各DPへの関連度(計10)						3	3	1	1	1	1	
授業の内容												
1	総合的な学習の時間の学習指導要領上での位置づけについて(講義)											
2	カリキュラム・マネジメントの観点からみた中学校・高等学校での実践事例(講義)											
3	教科の学習内容を踏まえた総合的な学習の時間の年間指導計画について(講義)											
4	総合的な学習の時間における評価の考え方と具体的な手法について(講義)											
5	授業実践を想定した地域素材の調査と教材開発(調べ学習と単元計画・授業案作成の準備)											
6	単元計画と授業案のグループ毎での作成(グループワーク)											
7	作成した単元計画と授業案のピアレビューとジグソー法学習の実践(グループワーク)											
8	学習指導計画最終案の作成と授業の振り返り											
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
授業内容	A:知識の定着・確認	○	授業案に対してグループでディスカッションを行う。	その他の								
	B:意見の表現・交換	○	他の人が作成した授業プランについて建設的な改善案を提案する。									
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造	○										
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	中学校学習指導要領解説または高等学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」を読む。各自の地元の自然、地理、歴史、行事、産業、観光資源等、授業の題材になりそうなものを調べておく。(12h)										
	事後学修	授業計画の構想・指導案の作成(12h)										
	想定時間合計	24										
教科書	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編(平成29年3月)文部科学省											
参考書	中学校学習指導要領(平成29年3月)文部科学省 高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編(平成34年度実施)文部科学省											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	最終課題	50%	○	○	○	○						
	毎回の授業の最後に提出する小レポートとグループワークによる制作物	50%	○	○								
注意事項	授業を受ける側ではなく、授業をする側としての意識を学んでください。授業の実際は氷山の一角であり、水の下にはその10倍くらいの氷(準備)があります。											
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
	生徒指導の理論と方法(進路指導を含む。)(Theories and methods of student guidance)						教職科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
必修	2	2	経済学部	前期	水1	日本語		単独					
担当教員	氏名 長谷川 祐介 E-mail yhasegawa@oita-u.ac.jp 内線 7541												
授業の概要	学校教育における生徒指導に関する意義や児童生徒理解と指導の実践方法に関する学習、ならびに進路指導ならびにキャリア教育の意義と指導に関する学習を通して、学校教員として求められる実践的指導力の基礎を培う。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	生徒指導の意義と原理を理解できる。							○		○			
目標2	学校におけるいじめや不登校など問題行動への対応について理論や指導方法を理解できる。							○		○			
目標3	進路指導とキャリア教育の意義ならびに指導のあり方について理解できる。							○		○			
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)								5		5			
授業の内容													
1	生徒指導とは何か：生徒指導の定義												
2	生徒指導の構造：2軸3類4層構造												
3	生徒指導の方法：児童生徒理解、集団指導と個別指導、ガイダンスとカウンセリング、組織的対応												
4	生徒指導の基盤：同僚性、マネジメント、家庭・地域の参画、児童生徒の権利												
5	生徒指導と教育課程：教科、道徳、特別活動等における生徒指導												
6	生徒指導体制：生徒指導の組織、教育相談体制、危機管理体制												
7	生徒指導に関する法令：校則、懲戒、体罰												
8	問題行動への対応(1)：いじめ、不登校												
9	問題行動への対応(2)：今日的な課題と関係機関との連携												
10	進路指導・キャリア教育(1)教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け												
11	進路指導・キャリア教育(2)学校の教育活動全体を通じたキャリア教育												
12	進路指導・キャリア教育(3)進路指導・キャリア教育の指導体制												
13	進路指導・キャリア教育(4)職業に関する体験活動												
14	進路指導・キャリア教育(5)ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育												
15	進路指導・キャリア教育(6)児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題への対応												
授業の 評価 方法 及び 評価 割合	A:知識の定着・確認	○ 学生のコメントペーパーへのリプライ、ディスカッション										その 他 の 評 価 方 法	
	B:意見の表現・交換	○											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	参考書等の情報を必要に応じて予習する(22.5h)。											
	事後学修	参考書、授業の資料等を用いて復習する(22.5h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	文部科学省(2022)『生徒指導提要(改訂版)』(デジタルテキスト, URL: https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf)												
参考書	文部科学省(2023)『中学校・高等学校キャリア教育の手引き』(URL: https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html)												
成績 評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	課題レポート	40%	○	○	○								
	授業時のコメントペーパー	60%	○	○	○								
注意事項													
備考													
リンク	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
	教育の制度と経営論 (Educational Systems and Management)						教職科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	2	2	経済学部・理工学部	後期	木4	日本語		単独					
担当教員	氏名 住岡 敏弘 E-mail sumioka@oita-u.ac.jp 内線 7532												
授業の概要	本講義では、現代の中等教育制度の意義、原理、構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、そこに内在する課題について理解するとともに、学校や教育行政機関が有するそれぞれの目的とその実現の方法について経営の観点から理解する。なお、この講義では、制度的・経営的観点から、学校と地域との連携の意義や地域との協働の方法について理解するとともに、学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的取り組みについても理解を深める。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	公教育制度や学校経営の概念や原理を理解する						○	○				○	
目標2	わが国の教育行政制度や学校制度、学校経営の現状を理解し、課題について考える						○		○		○		
目標3	わが国の教育法制度の体系を理解し、教師として教育活動に携わる際に必要な最低限の法的知識を身に付ける						○			○			
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							5	1	1	1	1	1	
授業の内容													
1	教育法制度(1)教育法制度の体系と区分												
2	教育法制度(2)教育を受ける権利・教育の機会均等など教育法制度の根本原理												
3	学校教育制度(1)学校系統と学校体系、インテグレーションとアーティキュレーション												
4	学校教育制度(2)わが国の学校体系、設置主体の多様化、公教育の問い直し												
5	学校経営の基礎(1)マネジメントサイクル、学校評価システム												
6	学校経営の基礎(2)学校と家庭、地域との連携、学校評議員、コミュニティスクール												
7	教育内容・教育課程(1)学級という制度、学級経営												
8	教育内容・教育課程(2)アクティブラーニングなど、今後の教育課程編成の基準の方向性												
9	教師の力量形成のための制度(1)教育職員の種類と職務、教員養成制度、教員の任用・研修												
10	教師の力量形成のための制度(2)教員の服務・懲戒・分限、教員評価、教員免許制度改革												
11	教育政策と教育行政制度(1)教育政策形成の枠組み、文部科学省、教育委員会												
12	教育政策と教育行政制度(2)国と地方の教育行政機関の関係、教育振興基本計画												
13	幼児教育制度 子どもの貧困対策大綱、シュアスタート												
14	特別支援教育の制度 幼稚園、保育所、認定こども園												
15	教育財政の制度 教育財政の制度構造、家計支出教育費の増大と教育扶助制度												
授業の 内容	A:知識の定着・確認	○ 学校経営や教育制度をめぐる課題についてグループワークを行う。					その 他 の 事						
	B:意見の表現・交換	○											
	C:応用志向	○											
	D:知識の活用・創造	○											
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	・テキストの指定された箇所を通読しておく。(20h)											
	事後学修	・講義内容を振り返り、学習内容の整理を行う。(25h)											
	想定時間合計												
教科書	使用しない。必要に応じて資料等を配布する。												
参考書	高妻紳二郎編著『新・教育制度論 第2版』ミネルヴァ書房、2023年。 岡本徹・佐々木司編著『現代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房、2016年。河野和清編著『新しい教育行政学』ミネルヴァ書房、2014年。 佐々木正治・山崎清男・北神正行編著『教育経営・制度論』福村出版、2009年。 『教育小六法』学陽書房。												
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	定期試験	70%	○	○	○								
	中間レポート	20%	○	○	○								
	授業時のコメントペーパー	10%	○	○	○								
注意事項	新聞やメディアで報じられる教育改革の話題に日ごろから注意しておくこと。												
備考													
リンク													
	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
	教職論 (teaching profession theory)						教職科目 対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
	2	2	経済学部・理工学部	前期	金1	日本語		単独					
担当教員	氏名 前田 菜摘 E-mail n-maeda@oita-u.ac.jp 内線 6148												
授業の概要	教師のライフコース全体を見直し、教員養成期・初任期・ミドル期・ベテラン期の各時期に必要な知識を身につける。また、統計データや新聞記事等にもとづき議論を交わすことで、教職の特性や固有の課題に関する理解を深める。これらの学習を通じて、教職に対する自らの適性を見きわめ、適切な進路選択の判断が行えるようにする。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	今日の学校教育や教職が果たす社会的意義ならびに職業的特徴について説明できる						○						
目標2	教師の職務内容や服務上・身分上の義務についての基礎的事項について説明できる						○						
目標3	ディスカッションやグループワークへの積極的な参加を通じて、自らの教職観を深めることができる							○					
目標4	これからの教員に求められる役割や資質能力について考えを述べる事ができる											○	
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							4	3				3	
授業の内容													
1	教職の定義と意義(オリエンテーション)												
2	理想の教師像・教職の特徴												
3	教職を知る(学校制度)												
4	教員養成課程の歴史・免許制度												
5	教師の1日・1年												
6	授業づくり・学習指導案をつくる												
7	生徒指導と学級経営												
8	教員の任用と服務・勤務条件												
9	教師の勤務実態・ワークライフバランス												
10	キャリアの転期・教職大学院												
11	ミドルリーダー・校長の役割												
12	教師の資質向上と研修制度・チーム学校												
13	教育実習・教職実践演習												
14	採用試験を受ける												
15	教育改革と教職のこれから												
授業内容 の 到達 目標	A:知識の定着・確認	○ 資料の分析、話し合い、プレゼンテーション					授業 内容 の 到達 目標	アイスブレイク、動画資料、LMS (Moodle) やGoogleワークスペースの活用					
	B:意見の表現・交換	○											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外 学修の内容 と 想定時間	準備学修	・授業で取り扱う内容について自身の被教育経験を振り返る(7.5h)。 ・新聞記事や資料を読み、自分なりの意見を考えること(7.5h)。											
	事後学修	・授業で取り扱った範囲を教科書で読み直す(30h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	佐藤晴雄『教職概論(第7次改訂版)』学陽書房、2025年/ISBN: 9784313611672												
参考書													
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	毎回のふりかえり	45%	○	○									
	受講態度・ワークへの参加	25%			○								
	期末レポート	30%				○							
注意事項													
備考													
リンク													
	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
	教育心理学 (Educational Psychology)						教職科目	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
必修	2	2	経済学部・理工学部	前期	木2	日本語		オムニバス					
担当教員	氏名 中里 直樹・藤田 敦 E-mail nakazato-naoki@oita-u.ac.jp 内線 7530												
授業の概要	教育心理学の性格と課題, 研究法, 幼児・児童・生徒の発達過程, 学習と動機づけ, 学級集団と学級経営, 発達障害の理解と指導等に関する教育心理学の理論と技能を体系的に学び, 教師に求められる基礎的な資質・能力を身につける。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	幼児期から児童期, 青年期に至る心身の発達過程の特徴とそれに関連する環境要因の影響について説明できる。						○						
目標2	幼児, 児童, 及び生徒の学習に関する基礎理論を習得し, 説明できる。						○						
目標3	動機づけ, 集団づくり, 評価など主体的な学習活動を支え高める指導のあり方についての基礎的な考え方を理解し, 説明できる。						○						
目標4													
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							10						
授業の内容													
1	教育心理学の意義と課題(中里)												
2	教育心理学の研究法(中里)												
3	幼児期・児童期の発達過程(1):知的発達(中里・藤田)												
4	幼児期・児童期の発達過程(2):愛着の発達(中里)												
5	青年期の発達過程(中里)												
6	学習の基礎理論(中里・藤田)												
7	学習理論の応用(中里・藤田)												
8	記憶・思考の理論(中里・藤田)												
9	動機づけの理論(中里)												
10	教育における評価(中里)												
11	人間の発達に関する諸理論(中里)												
12	パーソナリティと適応(中里)												
13	発達障害, 学習障害の理解と指導(中里)												
14	学級集団の構造と学級経営の理論(中里)												
15	学校カウンセリング(中里・藤田)												
授業内容	A:知識の定着・確認	○ 毎回の授業でライティング課題に取り組んでもらい, 提出を求める。そこで記述された質問に対しては, 次回の授業時に返答する。また, 適宜, 映像教材やグループディスカッションも活用して, 学生の動機づけを高め, 深い学びに導く。										評価	
	B:意見の表現・交換	○											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配布資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)。											
	事後学修	授業で学習したことを配布資料や教科書も用いて復習し, ライティング課題に取り組む(15h)。15回分の授業内容についての総合的理解及び考察に努める(15h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	『やさしい教育心理学 第5版(有斐閣アルマ)』 鎌原雅彦・竹網誠一郎著, 有斐閣 ISBN978-4641221468適宜, 配布資料も用いる。												
参考書	中学校学習指導要領, 高等学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省) 新・教職課程演習 特別活動・生徒指導・キャリア教育(藤田晃之・森田愛子編著, 協同出版, 2021年) ISBN978-4319003495												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	授業への積極的参加(ライティング課題, 質問等)	50%	○	○	○								
	期末試験	50%	○	○	○								
注意事項	授業回数の3分の1を超えて欠席した場合, 期末試験の受験を認めない。20分以上の遅刻, 及び特別の事由がない早退は欠席扱いとする。遅刻3回をもって欠席1回と見なす。												
備考													
リンク	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AA42Z051	スポーツ文化科学 (Sports Culture Science)							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	1	経・理工	前期		日本語		単独					
担当教員	氏名 岡内 優明(理工・非常勤) E-mail okauchi@oita-u.ac.jp 内線												
授業の概要	現代人は日常の運動量が少ないため、摂取エネルギーが消費エネルギーを越えてしまいがちである。また運動量が少ないため筋肉量が少なく、そのため基礎代謝量が低くなり体脂肪率が高くなる。体脂肪率が高くなると高血圧や糖尿病、高脂血症など生活習慣病に発展する可能性が高くなる。本講義では筋力の低下からもたらされる生活習慣病を問題視し、脂肪の蓄積と分解のメカニズムやエネルギー代謝、筋肉と基礎代謝量などについて理解し、実践的な体カトレーニングや様々なスポーツを実践することによって、健康的な身体づくりをする方法を学習することが目的である。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	健康を維持するために必要な運動や食事を自分で考えられる。						○						
目標2	体脂肪の蓄積と分解のメカニズムを理解できる。						○						
目標3	トレーニングの内容やスポーツの実施方法を計画できる。								○			○	
目標4	メンバーと協力してトレーニングや各種スポーツを実行できる。							○					
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							2	1	1			6	
授業の内容													
1	運動が健康に及ぼす影響、老化と体力、体脂肪を燃焼させる身体づくり、健康づくりのためのトレーニングの理論と実践方法												
2	実践するトレーニングとスポーツを組み立て、実施方法を計画する。安全対策の確認。												
3	有酸素トレーニングの実践1												
4	有酸素トレーニングの実践2												
5	有酸素トレーニングの実践3												
6	筋力トレーニングの実践1												
7	筋力トレーニングの実践2												
8	筋力トレーニングの実践3												
9	スポーツの実践(球技1)												
10	スポーツの実践(球技2)												
11	スポーツの実践(球技3)												
12	スポーツの実践(球技4)												
13	スポーツの実践(球技5)												
14	スポーツの実践(球技6)												
15	スポーツの実践(球技7)												
授業の到達目標	A:知識の定着・確認	○	・毎回、終了時に運動量しくはトレーニングの負荷量が適当であったかを確認させる。									授業の到達目標	
	B:意見の表現・交換	○	・ペアやグループでお互いの体力を把握させ負荷を調整させるとともに、疲労の程度を見極め安全対策を怠らないことを自覚させる。										
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	実施するトレーニングやスポーツの内容の確認。(25h)											
	事後学修	実施したトレーニングやスポーツの効果の確認。(20h)											
	想定時間合計	45											
教科書	適宜、資料を配布する。												
参考書	鈴木正成(1993) 実践的スポーツ栄養学. 文光堂 ISBN 978-4830651458 勝田 茂(1997) 入門運動生理学. 杏林書院 ISBN 978-4764411593 前田寛他(1999) 自転車と健康. 東京電気大学出版 ISBN 978-4501616809												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	受講態度	40%	○	○	○	○							
	レポート	60%	○	○	○	○							
注意事項	運動に適したウェア、屋内用のシューズを用意すること。												
備考	(スポーツ文化科学:健康トレーニング)												
リンク	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
	スポーツ文化科学 (Sports Culture Science)						全学共通科目 福祉・地域	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	1	経・理工	前期	金3	日本語		単独					
担当教員	氏名 小池 貴行(理工) E-mail t-koike@oita-u.ac.jp 内線 7720												
授業の概要	近年キャンプ、カヌー、サイクリング、トレッキング、登山、スキー等のアウトドアスポーツの実施人口が増えてきている。それは、これらのアウトドアスポーツを通じて、大自然の雄大さを感じさせてくれるからであろう。しかし、自然との上手なつきあい方を知らないと、自然を破壊するだけでなく、一歩間違えば自らの生命を失うこともある。そこで、本授業では、バードウォッチングや山菜摘み等、野外で行う活動を幅広くとらえ、自然を理解することからはじめ、不便な自然環境下でも人間活動ができるスキルを養う。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	春から夏にかけて、学内でできる野外活動の基本的技術を習得する。						○		○			○	
目標2	また生物の営みや自然の持つ巧みさ、巧妙なバランス等を知る。						○		○		○	○	
目標3	自然との上手なつきあい方を学び、生涯を通じてアウトドアスポーツを実践するための生活習慣を身につける。						○	○			○	○	
目標4	仲間との協力、連携を図りながら、必要なアウトドア技術を修得する。						○	○	○			○	
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							3	1	2		1	3	
授業の内容													
1	ナタ、オノの使い方と焚き火の仕方、火起こし(1~7週目)(8~14週目)												
2	野外料理の作り方(1~7週目)(8~14週目)												
3	キャンプ用品の使い方とメンテナンス(1~7週目)												
4	夏のバードウォッチング(1~7週目)												
5	ロープワークとボルダリング、クライミング(8~14週目)												
6	ブールでカヌーのパドリング(8~14週目)→希望があれば体験カヌー川下り実習(オプション)												
7	自転車の調整とサイクリング(1~7週目)(8~14週目)												
8	トレッキングと自然探検(1~7週目)												
9	自然と調和したクラフトの制作(8~14週目)												
10	フリスビー、ディスクゴルフ、アルティメット(受講者の身体や気象状況を考慮して導入する予定)												
11	観天望気と星座観察(受講者の身体や気象状況を考慮して実施を判断)												
12	登山(オプション)												
13	活動内容の報告会(15週目)												
14	1から9の内容は、全員一斉に実施できないので、5~6名のグループに分かれて実施。												
15	※オプションと付いた活動は授業内や学内ではできないので、希望者がいれば休日や授業時間外に行います。												
授業時間外学修の内容と想定時間	A:知識の定着・確認	○ 上記の野外活動を選択し、少人数のグループを構成する。各グループごとに相談しながら、受講生自身で野外活動の技術や理論を調査・実践し、必要な技術を一つ一つ修得しつつ、自然を親しむ能力を修得する。										授業は90分ではあるが、グループ活動は実質70分程度である。その状況下で各グループの計画を進めるためには、入念な事前準備(段取り)が必要である。毎回、段取りが十分に成されれば、計画以上の成果が得られる。	
	B:意見の表現・交換												
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造												
準備学修	毎回の授業開始時に、各自が1週間で感じた自然について質問するので、簡単に答えられるように準備すること。また、各々が取り組む実技に関する1時間程度の動画や資料をムードル上に示すので、事前に熟読すること。(毎回1.5h程度、計22.5h)												
	取り組んだ実技について振り返り、方法、得られた結果、考察をノートに記入し、それらを踏まえて反省点をもとに、次回の行動計画に反映させること。それに加え、毎回写真を撮影し、整理しつつ解説文を記入する(毎回1.5h程度、計22.5h)。この取組がレポート作成時に活かされる。												
	想定時間合計 45												
教科書	特に指定はしない。												
参考書	「ババパラギ」岡崎輝男訳、立風書房(ISBN4-651-93007-7)												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	毎週の活動報告	20%	○	○	○	○							
	レポート内容	30%	○	○	○								
	積極性や技能の修得度、成果	50%	○		○	○							
注意事項	充実したグループ活動のためには各々が積極的に授業に参加することは、勿論、学生として責任のある行動をとることが求められる。												
備考	(スポーツ文化科学：春・夏の野外活動)履修可能人数の制限はあるが、それは入学後の全体オリエンテーションで説明する。												
リンク													
	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
	スポーツ文化科学 (Sports Culture Science)						全学共通科目 福祉・地域	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態					
選択	2	1	経・理工	前期	金3	日本語		単独					
担当教員	氏名 河野 吉喜(経・非) E-mail info@kawanoyoshiki.com 内線												
授業の概要	食生活や運動不足など生活習慣が生活習慣病や健康づくりにどのような影響を及ぼすのかについて理解する。さらにレクリエーションスポーツの実践を通じて、健康・体力づくりとレクリエーション(身体活動)の楽しさを習得する。「いつでも、どこでも、だれにでも」気軽にできるレクリエーションの楽しみと、様々なレク財を用いて遊びやゲーム、対象者に合わせたルールを開発し、健康・体力づくりに活かしていく。さらに仲間づくりを通じて人間関係を確立する。また、ポジティブヘルスの立場からの身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康などについて理解を深める。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	生活習慣病の原因を理解するとともに予防の意義と健康・体力づくりの必要性について他者に説明できる。						○						
目標2	レクリエーションスポーツを通してレクリエーションスポーツの指導ができる。							○					
目標3	自らの健康の保持増進に向けた行動が日常生活のなかでできる。											○	
目標4	ゲームを通してコミュニケーションができる。							○					
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							1	4				5	
授業の内容													
1	オリエンテーション、生活習慣病予防と健康づくり、身体活動の意義(講義)												
2	レクリエーションとスポーツについて(講義)												
3	ベタンク:ベタンクの道具を用いてゲームを考える(実技)												
4	ベタンク:起源と歴史、ルールを考える、正しいルールの理解、グループでゲームの実践(実技)												
5	ベタンク:グループでゲームの実践(実技)												
6	グラウンドゴルフ:グラウンドゴルフの道具を用いてゲームを考える(実技)												
7	グラウンドゴルフ:起源と歴史、ルールを考える、正しいルールの理解、グループでゲームの実践(実技)												
8	グラウンドゴルフ:グループでゲームの実践(実技)												
9	インディアカ:起源と歴史、インディアカの道具を用いてゲームを考える(実技)												
10	インディアカ:正しいルールの理解と基本的な動きの習得、グループでゲームの実践(実技)												
11	インディアカ:グループでゲームの実践(実技)												
12	バドミントン:正しいルールの理解と基本的な動きの習得(実技)												
13	バドミントン:基本的な動きとゲームの実践<シングル>(実技)												
14	バドミントン:基本的な動きとゲームの実践<ダブルス>(実技)												
15	その他のレクリエーションスポーツの紹介、授業全体のまとめ(講義)												
授業内容	A:知識の定着・確認	○	健康づくりや実技を通してグループやチームによる話し合いや意見交換をしてもらう。									授業内容	
	B:意見の表現・交換	○											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造	○											
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	生活習慣病、健康づくり、身体活動、レクリエーション、スポーツについて事前に調べておくこと(1.5時間)											
	事後学修	それぞれのスポーツ種目の実践を通して技術やルールについて取り組む(1.5時間)											
	想定時間合計	45											
教科書	特に使用しない。												
参考書	授業中に配布するプリントを使用する。												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	実技実習にグループやチームで協力して積極的に取り組む	50%		○	○	○							
	実技実習のルールを理解しプレーできる	10%		○									
	コミュニケーション能力	10%		○		○							
	レポート提出	30%	○		○								
注意事項	受講態度、服装、その他注意は、授業の最初に伝える。4回以上の欠席は再履修。経済学部の教職課程を希望する学生のみ履修可。												
備考	「身体活動、健康づくり、レクリエーション」の授業を通して「健康」について理解を深めてもらいたい。(スポーツ文化科学:レクリエーションスポーツと健康づくり)												
リンク													
	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
	スポーツ文化科学 (Sports Culture Science)					全学共通科目 その他	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
選択	2	1	経・理工	後期	金3	日本語		単独					
担当教員	氏名 岡内 優明 (理工・非常勤) E-mail okauchi@oita-u.ac.jp 内線												
授業の概要	バレーボールは同時に多くの人がゲームを楽しむことができ、チーム全員で協力してボールを繋いでいくためメンバー同士のコミュニケーションも深まる。また、運動強度・エネルギー消費量も大学生にとって適度である。バレーボールは主に上肢でボールを打つことが中心的な技術で、粘弾性を持ったボールと身体との衝突現象である。基礎的な技術を習得するにはこの力学的特性を理解することが助けとなる。この授業ではバレーボールの基礎的な技術を練習し、ゲームの仕組みや戦術・ルールを理解し、チームのメンバーと協力してチーム力を高めることによってバレーボールのおもしろさを実感できるようになることを目標とする。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ボールと身体との衝突を力学的に捉えて、その特性やメカニズムを理解できる。					○							
目標2	基礎的な技術を習得し試合に適用できる。					○							
目標3	基礎的な戦術を理解し試合に適用できる。					○							
目標4	ルールを理解し実践に適用できる。					○							
目標5	チームのメンバーと協力して練習方法を考え実践できる。						○				○		
目標6	チームのメンバーと協力して試合の中で基本的な戦術を展開できる。						○				○		
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						6	2				2		
授業の内容													
1	オリエンテーション、バレーボール競技の歴史、ボールと上肢の衝突の力学的特性												
2	必要な用具とその使用方法、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ												
3	対人レシーブ、スパイク、ブロック												
4	バレーボールのゲームのシステム、スターティングラインナップ、ローテーション、プレーヤーのポジションに関するルール、簡易ゲーム												
5	バレーボールのルールと戦術システム、スパイクレシーブのフォーメーション、サーブレシーブのフォーメーション、簡易ゲーム												
6	オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの練習方法・リーグ戦によるゲーム												
7	サーブの練習方法・リーグ戦によるゲーム												
8	スパイクの練習方法・リーグ戦によるゲーム												
9	ブロックの練習方法・リーグ戦によるゲーム												
10	二段トスの練習方法・リーグ戦によるゲーム												
11	サーブレシーブの練習方法・リーグ戦によるゲーム												
12	リーグ戦によるゲーム												
13	リーグ戦によるゲーム												
14	リーグ戦によるゲーム												
15	まとめ												
授業の到達目標	A:知識の定着・確認	○	授業の最後に技術・戦術・ルール等で疑問点や不明な点をディスカッションさせる。経験者を中心にルールや戦術についてミーティングを行い、コミュニケーションを取ることでより学習効果を上げる。試合の組み合わせや順番を確認させ十分な運動量を確保できるよう促す。										授業の到達目標
	B:意見の表現・交換	○											
	C:応用志向	○											
	D:知識の活用・創造	○											
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	基礎的な技術の力学的特性について具体的に考えておく(25h)											
	事後学修	力学的特性を生かしたプレイができたか確認する(20h)											
	想定時間合計	45											
教科書	指定しない。資料を配布。												
参考書	指定しない。												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	平常点(受講態度・積極性他)	60%	○	○	○	○	○	○					
	レポート	40%	○	○	○	○	○	○					
注意事項	運動に適した服装と体育館用シューズを用意すること。												
備考	(スポーツ文化科学：バレーボールの科学)												
リンク	URL												

ナンバリング	スポーツ文化科学 (Sports Culture Science)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
						全学共通科目 福祉・地域	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
選択	2	1	経・理工	後期	金3	日本語		単独					
担当教員	氏名 小池 貴行 (理工) E-mail t-koike@oita-u.ac.jp 内線 7720												
授業の概要	近年のキャンプ、カヌー、サイクリング、スキー等のアウトドアスポーツが盛んに行われるようになった理由として、これらのアウトドアスポーツが大自然との接触を可能にすることや、コロナ禍によりソロキャンプの需要が増えたのが挙げられる。しかし、自然との調和など自然との上手な付き合い方を知らないと、自然破壊だけでなく、一歩間違えば生命を失う場合もある。そこで、学内の自然環境を活用し、バードウォッチングや山菜摘み等、野外で行う活動を幅広くとらえ、自然をよく理解することから始めていき、不慣れな自然環境下でも人間活動が営めるスキルを修得・体得する。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7
目標1	秋から冬にかけて、学内でできる野外活動の基本的技術を習得できる。							○				○	
目標2	生物の営みや自然の持つ巧みさ、巧妙なバランス等を知る。							○		○		○	
目標3	自然との上手なつきあい方を学び、生涯を通じてアウトドアスポーツを実践するための生活習慣を身につける。						○	○		○		○	
目標4	仲間との協力。連携を図りながら、必要なアウトドア技術を修得する。						○	○	○			○	
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)							2	3	1	1		3	
授業の内容													
1	火きり板、火きり棒、竹を使う、火の起こし方(1~7週目、8~14週目)												
2	保存食(くん製など)や野外料理の作り方(1~7週目、8~14週目)												
3	秋・冬のバードウォッチング(1~7週目、8~14週目)												
4	自転車の調整とサイクリング(1~7週目、8~14週目)												
5	厳寒期におけるキャンプの方法(8~14週目)												
6	観天望気と星座観察(1~7週目、8~14週目)※夜間に星座観察することもあります。												
7	ロープワークとフリークライミング(1~7週目)(8~14週目)												
8	草木を使ったクラフト制作(8~14週目)												
9	体験スキー実習(オプション)												
10	体験パラグライダー(オプション)												
11	体験スケート実習(オプション)												
12	フリスビー、ディスクゴルフ、アルティメット(受講者の身体や気象状況を考慮して導入する予定)												
13	活動内容の報告会(15週目)												
14	上に記載した全活動の実施は困難なので、前半(1~7週目)と後半(8~14週目)で異なる種目を1つ選択し、グループで活動する。												
15	※オプションと付いた活動は学内ではできないものなので、希望者を募って休日に行うことがあります。												
授業内容 の 評価 方法 及び 評価 割合	A:知識の定着・確認	○	上記の野外活動のテーマを前半または後半で1つ選択し、5~6名の少人数のグループを構成する。そのテーマについて各グループごとに相談しながら、受講生自身で野外活動の技術や理論を調査し実践する。										
	B:意見の表現・交換	○											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造	○											
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	グループ単位で実施する実技に関する映像や資料を事前に30分程度熟読し、各々の行動計画に反映させること。その後の事前準備を入念に行うこと(毎回1.5h、計22.5h)。											
	事後学修	各グループの取組内容の成果や反省点をノートへ記入のこ。記入内容は、各日の目的・目標、方法、結果・成果、考察と反省とする。毎回撮影した写真等を整理し、解説文を記入する(毎回1.5h、計22.5h)。											
	想定時間合計	45											
教科書	特に指定はしない。												
参考書	「ババパラギ」岡崎輝男訳、立風書房(ISBN4-651-93007-7)												
成績 評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	毎週の活動報告	20%	○	○	○	○							
	レポート内容	30%	○	○	○								
	積極性や技能の修得度、成果	50%	○		○	○							
注意事項	充実したグループ活動のためには各々が積極的に授業に参加することは、勿論、学生として責任のある行動をとることが求められる。												
備考	(スポーツ文化科学：秋・冬の野外活動)人数制限を設けるが、それは入学後の全体オリエンテーションにて説明する。												
リンク													
	URL												

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
	スポーツ文化科学 (Sports Culture Science)					全学共通科目 その他	対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	他に使用する言語	担当形態					
選択	2	1	経・理工	後期	金3	日本語		単独					
担当教員	氏名 河野 吉喜(経・非) E-mail info@kawanoyoshiki.com 内線												
授業の概要	食生活や運動不足など生活習慣が生活習慣病や健康づくりにどのような影響を及ぼすのかについて理解する。さらにレクリエーションスポーツの実践を通じて、健康・体力づくりとレクリエーション(身体活動)の楽しさを習得する。「いつでも、どこでも、だれにでも」気軽にできるレクリエーションの楽しみと、様々なレク財を用いて遊びやゲーム、対象者に合わせたルールを開発し、健康・体力づくりに活かしていく。さらに仲間づくりを通じて人間関係を確立する。また、ポジティブヘルスの立場からの身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康などについて理解を深める。												
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	生活習慣病の原因を理解するとともに予防の意義と健康・体力づくりの必要性について他者に説明できる。					○							
目標2	レクリエーションスポーツを通してレクリエーションスポーツの指導ができる。						○						
目標3	自らの健康の保持増進に向けた行動が日常生活のなかでできる。										○		
目標4	ゲームを通してコミュニケーションができる。						○						
目標5													
目標6													
目標7													
目標8													
目標9													
目標10													
各DPへの関連度(計10)						1	4				5		
授業の内容													
1	オリエンテーション、生活習慣病予防と健康づくり、身体活動の意義(講義)												
2	レクリエーションとスポーツについて(講義)												
3	ベタンク:ベタンクの道具を用いてゲームを考える(実技)												
4	ベタンク:起源と歴史、ルールを考える、正しいルールの理解、グループでゲームの実践(実技)												
5	ベタンク:グループでゲームの実践(実技)												
6	グランドゴルフ:グランドゴルフの道具を用いてゲームを考える(実技)												
7	グランドゴルフ:起源と歴史、ルールを考える、正しいルールの理解、グループでゲームの実践(実技)												
8	グランドゴルフ:グループでゲームの実践(実技)												
9	インディアカ:起源と歴史、インディアカの道具を用いてゲームを考える(実技)												
10	インディアカ:正しいルールの理解と基本的な動きの習得、グループでゲームの実践(実技)												
11	インディアカ:グループでゲームの実践(実技)												
12	バドミントン:正しいルールの理解と基本的な動きの習得(実技)												
13	バドミントン:基本的な動きとゲームの実践<シングル>(実技)												
14	バドミントン:基本的な動きとゲームの実践<ダブルス>(実技)												
15	その他のレクリエーションスポーツの紹介、授業全体のまとめ(講義)												
授業内容	A:知識の定着・確認	○	健康づくりや実技を通してグループやチームによる話し合いや意見交換をしてもらう。					授業内容					
	B:意見の表現・交換	○											
	C:応用志向												
	D:知識の活用・創造	○											
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	生活習慣病、健康づくり、身体活動、レクリエーション、スポーツについて事前に調べておくこと(1.5時間)											
	事後学修	それぞれのスポーツ種目の実践を通して技術やルールについて取り組む(1.5時間)											
	想定時間合計	45											
教科書	特に使用しない。												
参考書	授業中に配布するプリントを使用する。												
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	実技実習にグループやチームで協力して積極的に取り組む	50%		○	○	○							
	実技実習のルールを理解しプレーできる	10%		○									
	コミュニケーション能力	10%		○		○							
	レポート提出	30%	○		○								
注意事項	受講態度、服装、その他注意は、授業の最初に伝える。4回以上の欠席は再履修。経済学部の教職課程を希望する学生のみ履修可。												
備考	「身体活動、健康づくり、レクリエーション」の授業を通して「健康」について理解を深めてもらいたい。(スポーツ文化科学:レクリエーションスポーツと健康づくり)												
リンク													
	URL												